

確かな学力向上を図る学習過程と家庭学習の工夫

【吉川市教育委員会】

1 学校、学年、教科 …小学校、全学年、算数

2 ねらい

基礎・基本の確実な定着を図るとともに思考力・表現力を育成する。そのために①「目指す児童像」の策定と実践、②話し合い活動の充実、③ノート指導の充実、④ドリル学習の徹底、⑤家庭学習の全校実施を行う。

3 取組内容

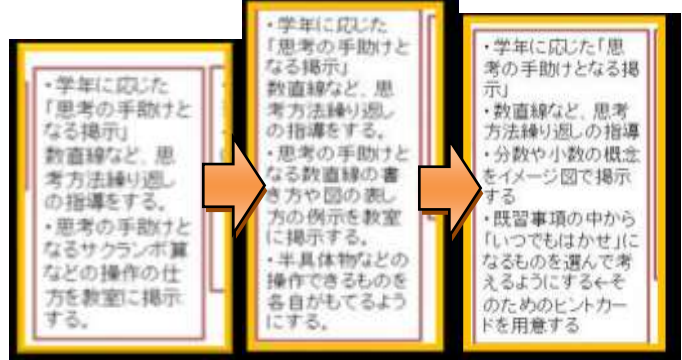
(1) 発達段階を考慮した「目指す児童像」の作成

算数科における「学習態度」「思考力」「書く力」「聴く力・話す力」「家庭学習」について、「目指す児童像」「評価規準」「手立て・方策」を作成した。発達段階を考慮しながら低・中・高のブロックごとに作成し、全校で共通理解のもと指導にあたった。

	学習態度	思考力	書く力	聴く力・話す力	家庭学習
目指す児童像	授業中、積極的に発言し、自分の考えを表現する。	自分の考えを整理し、論理的に説明できる。	自分の考えを整理し、論理的に説明できる。	自分の考えを整理し、論理的に説明できる。	学習の進捗を確認し、家庭学習を習慣化する。
評価規準	授業中、積極的に発言し、自分の考えを表現する。	自分の考えを整理し、論理的に説明できる。	自分の考えを整理し、論理的に説明できる。	自分の考えを整理し、論理的に説明できる。	学習の進捗を確認し、家庭学習を習慣化する。
手立て・方策	学習態度の育成に努める。	思考力の育成に努める。	書く力の育成に努める。	聴く力・話す力の育成に努める。	家庭学習の指導に努める。

「手立て・方策」(思考力)

低学年 中学年 高学年



(2) 話し合い活動の充実

低学年ではペア学習、中学年ではグループ内で考え方を発表、高学年ではグループ内で互いの考えを交流というように、児童の発達段階に応じた話し合い活動を授業に取り入れた。その際、「目指す児童像」の「聞く力・話す力」に示された話し方や聞き方について指導し、定着を図った。

話し合い活動の様子

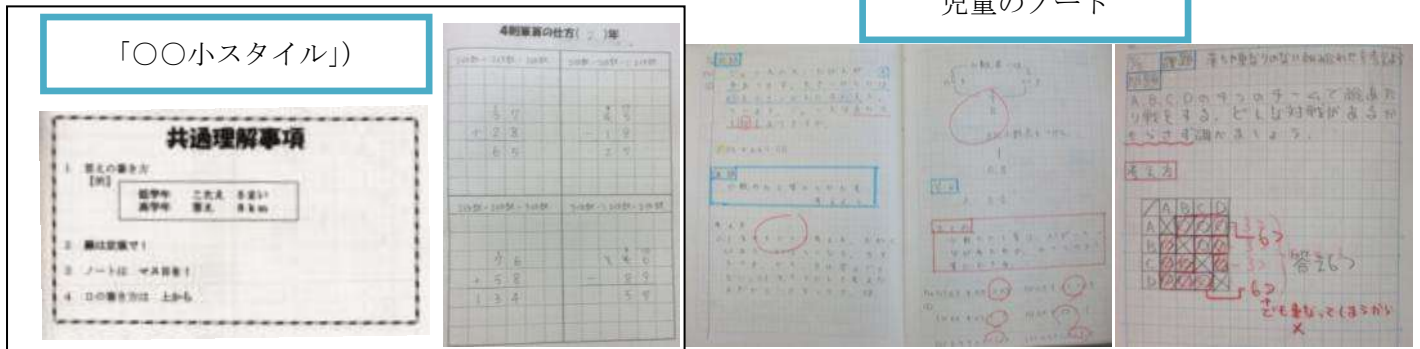


話し方・聞き方に関する掲示物



(3) ノート指導の充実

計算の仕方やノートのとり方について、「〇小スタイル」を作成し、共通理解のもと指導を行った。また、学習の流れや、使用する学習用具（下敷き・定規）を統一することで、学年が変わっても同様に学習を進めることができるようにした。

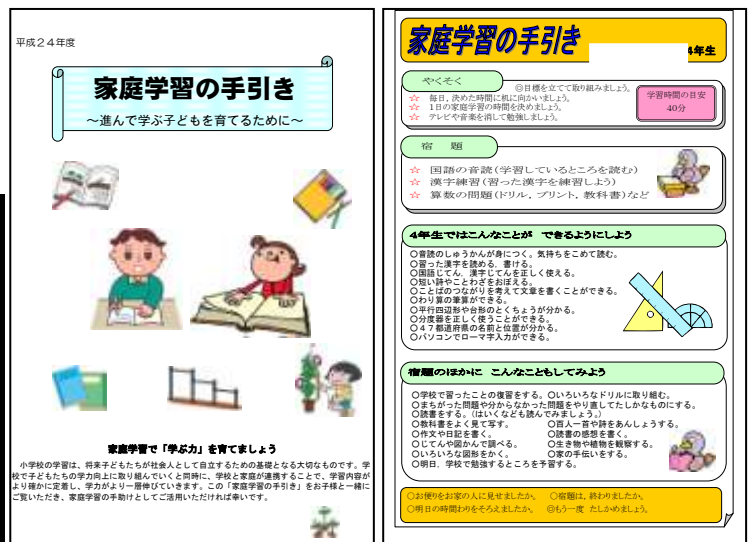
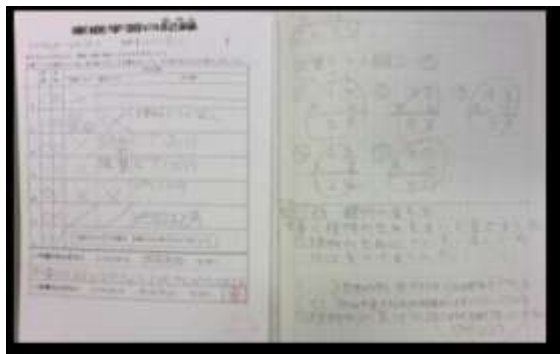


(4) 習熟の時間・ドリル学習の徹底

毎週1回、業前にドリル学習の時間を設定し、計算問題や基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。また、毎時間必ず習熟の時間を設けるようにし、学習内容を着実に身に付けられるようにした。

(5) 家庭学習の全校実施

「家庭学習の手引き」を作成し、全校に一斉配して家庭に理解と協力を求めるとともに、記録票・計画表の活用など学年で共通理解を図り、指導にたった。



4 成果と課題 (○印は成果, △印は課題)

- 「目指す児童像」の作成により、指導方針について学校全体で共通理解を図ることができた。また、系統性が明確になったことで、前学年で身に付けてきた既習事項を生かした指導がしやすくなった。
- 発達段階に応じた話し合い活動を授業に取り入れることで、低・中学年は自信をもって自分の考えを発表できるようになった。高学年では互いの考えのよさに気づき、互いを認め合うことができるようになった。また、他の教科においても算数で学んだ話し方を用いて話し合い活動ができるようになった。
- 「関小スタイル」を用いて指導することで、学年が変わったりクラス替えがあったりしても戸惑うことなく学習を進めることができるようになった。
- 復習を中心としたドリル学習や家庭学習によって基礎・基本の定着が図れた。同時に家庭学習では家庭における学習習慣を定着させることができた。
- △話し合いに積極的に参加することができない児童に対する支援のあり方について工夫の余地がある。
- △基礎基本の定着に個人差が見られるので、学習内容や家庭学習の取り組ませ方など、個に応じた支援のあり方をさらに改善していく必要がある。